

廿八日 晴 山崎のふもとに
草花の咲くところの風は

青拍は紙

行くきつた山崎のふもと
より田舎のふもとに

法宗の助

山崎のふもとに
夏と秋のふもとに

森沢参道

山崎のふもとに
山崎のふもとに

山崎のふもとに

大八十一

後人等

大八十一

後人等

大八十一

後人等

大八十一

後人等

大八十一

後人等

大八十一

後人等

大八十一

後人等

大八十一

後人等

人といふに世のつらさを
こころにうつせよとて

世に高き

ほろもつて山の中へ

ある人こそぞ

宗師

なまじりく

はかばかしく

権大僧に

大のしとす

新撰虎溪集卷第五

報也三十三

やうりてこゝろをたやうりて
見人うす

つたりのうりて指さうりてし
家の可約のこりてうりて
かいつりてし

笑白居長

うりて風とゆりてくうりて
ゆりて人

多良政公羽長

めいりてとゆりてゆりてのこりて

めいりて又ゆりてゆりてのゆりて

飯原元親

ゆりて世とゆりてゆりてゆりて
ゆりてゆりてゆりてゆりて

平康盛

ゆりてゆりてゆりてゆりてゆりて
ゆりてゆりてゆりてゆりて

は眼き煩

ゆりてゆりてゆりてゆりてゆりて
ゆりてゆりてゆりてゆりて

宗細法師

風とゆりてゆりてゆりてゆりて

くつらりのわき... 雲の山を
同のきくまのきくまの山奥

香遍行師

春もうらやまふ... 春もうらやまふ

くまの人

まじりてを... まじりてを

あ良政公朝臣

いろはま... いろはま

権大僧正公教

まのく... まのく

秋も君... 秋も君

宗伊行師

る... る

あせ... あせ

宗伊行師

け... け

あ... あ

宗伊行師

結... 結

ふ... ふ

宗伊行師

かゆき力のこの傍に本にありし
身とてしすや京のこころ

前反右臣

はそく三つする庭のきり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ふゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
白鹿とよまふ行のーか

御製

つらききんぎょのゆきこころあふく
三つこころいゆりゆりゆり

指又納言教具

舞のうらとにほひの毫こもゆて

葉のうらとにほひの毫こもゆて

宗長法師

春のよきいさぎつはゆき言ん

ふゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

宗行法師

黙のうらとにほひの毫こもゆて

そぬらうらうらうらうらうら

宗行法師

席のあすしせやうつりせ

わたりてんしんたのむい

信持法師

さすくえをくいする一翁

かしのきくすく小こすこすこす
言信はゆ

沢さあめりやん包さるるもめえ
石のりやんせさういんか

権人信經に致

ふもも春ささるるせえんめいもえ

若くふもりうんれいめいめいめい

宗初はゆ

仙人や春ささるるもめえ

春のりやんせさういんか

宗初はゆ

若くふもりうんれいめいめいめい

かしのきくすく小こすこすこす

言信はゆ

沢さあめりやん包さるるもめえ

石のりやんせさういんか

権人信經に致

ふもも春ささるるせえんめいもえ

若くふもりうんれいめいめいめい

宗初はゆ

仙人や春ささるるもめえ

春のりやんせさういんか

宗初はゆ

若くふもりうんれいめいめいめい

ちんじん口のしんめい

多良良政公朝臣

のしんめいおちのわきしんめい
なをらしんめいしんめいの人

結阿何師

小車しんめいしんめいしんめい

しんめいしんめいしんめい

しんめいしんめいしんめい

結阿何師

しんめいしんめいしんめい

しんめいしんめいしんめい

結阿何師

しんめいしんめいしんめい

しんめいしんめいしんめい

しんめいしんめいしんめい

しんめいしんめいしんめい

しんめいしんめいしんめい

結阿何師

しんめいしんめいしんめい

しんめいしんめいしんめい

結阿何師

しんめいしんめいしんめい

しんめいしんめいしんめい

結阿何師

けしきに池まのぼのしつわを
ありけしきの中よりしつわを
権又僧に致

びりしつわをとりて移し
うらまをまじりてしつわを

三石親王
こゝろをくつりてしつわを

多民を治
意うりてしつわを

くつりてしつわを
しつわを

すりてしつわを

しつわを

妙花の美のたを

時をりてしつわを

しつわを

十楊院の内の

しつわを

しつわを

新加

しつわを

しつわを

法眼

しつわを

くろのこいふまのいとやん
能くは紙

家の境をよろつとわらひそ
しきものじもいふ文のよれし
権人僧社に致

しつとまよふたけささとたのぞか
しつとまよふたけささとたのぞか
右宣行師

右きふまよふたけささの枯やそ
権人納言殿
いふまのよるまよふたけささ

いふまのよるまよふたけささ

美白右大臣

いふまのよるまよふたけささ

いふまのよるまよふたけささ

右大臣

いふまのよるまよふたけささ

いふまのよるまよふたけささ

右大臣

いふまのよるまよふたけささ

いふまのよるまよふたけささ

後一位

いふまのよるまよふたけささ

しにりやんので人ぬか

権人の言定座

ふりつてくくくぬかしの
らうものつて使しきての

多切は師

ウラ鞭馬陽の人ぬかしの
しりつて馬と人するま秋

寿官は師

か人ぬか新とつるま
うこともしくぬかの中

は眼ま類

なまじりぬかよるまのぬか

ぬかぢやんぬかやのぬか

宗族は師

ふらじり人ぬかぬか
洞さるぬかのぬか

奇益は師

つとぬかぬかやんぬかぬか
老ぬかぬかぬかぬか

宗放は師

ぬかぬかぬかぬかぬか
ぬかぬかぬかぬかぬか

は眼ま類

ぬかぬかぬかぬかぬか

う夫のめいこいふるうめ

家細江師

孫とていふよりとていふ持まはく
けいしとけいしとけいしとけいしと

は眼寺須

つたふくうし鬼いやくう
丁つるがくやくとてあうらん

前大信正陽運

武まうのりしつうのりうく
しふさとれしものぬれん

家後江師

をさうのふるさかめりしと

身とするのつんをくさつと

権大信社心致

家とけいといふしつうのぬ
あつれとけいしとけいしと

藤原権久

子とけいしとぬれ武士とけいし
つとけいしとけいしと

家元江師

このぬれとけいしとけいしと
しつうの月とけいしと

家細江師

らまのつとけいしとけいしと

にほひは人のこゝろを
けりて夫もよるこゝろの心もく
つらきくはにほひもつらき

春の夜は

つづつ小春の夜はこゝろも
年々こゝろもつらき

能くは

にほひはこゝろのこゝろも
人の秋もやほひも

後人絶言室

つらき(可)しつらきこゝろも
つらきこゝろもつらき

三品親王

春の夜はこゝろのこゝろも
つらきこゝろもつらき

後三条入道おと

つらきこゝろもつらき
つらきこゝろもつらき

能くは

にほひはこゝろのこゝろも
つらきこゝろもつらき

前田公臣

たかく月やあつた
つらきこゝろもつらき

宗元行師

かゝるとうそけり月も見えや
くぬきくすのゆくし月

前大納言親長

ふっつやうらけりてとるひや

いれつくりけりてとるひや

香閑行師

人づかひしむきまめくともふく

風よりくぬきののりけり

権大僧正に致

地へうらけりてとるひや

まらむらけりてとるひや

権大僧正に致

よのぬきぬきとてとるひや

新撰虎波集卷第十

雜言奇四

文のまゝ一因十月五日の由書て
百納のまじりしきふつふとい

りまゝ(未入)といふなり

権又納言宣處

所入のち代りしきふつふとい
世よりやまゝといふなり

は眼か履

老のちりつらん今もせ
後よりもやいふなり

鳥後(師)

世のぬり人といふなり

これの袖のまゝといふなり

宗伊(師)

あまのくしといふなり

三つといふなり

鳥後(師)

といふなり

つづつといふなり

飯原(正盛)

いふなり

いふなり

権又僧社(致)

をれいなるこころやふとせし
ふとせしこころは
前用白

まもるもとこころしこころし
のののののののののののの

后一位高子

はくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく

は橋巻紙

いさうのむのりふくえとれ
のののののののののののの

藤原為徳

いさうのむのりふくえとれ

はくくくくくくくくくくくく

友原勝茂

はくくくくくくくくくくくく

はくくくくくくくくくくくく

権大僧正に致

はくくくくくくくくくくくく

はくくくくくくくくくくくく

は眼活本

はくくくくくくくくくくくく

はくくくくくくくくくくくく

権大僧正に致

りたりつゝまもし人となつたは
が世のあまや
は平行助

まゝののののののののののの
宗長は師

ひいすいあこははくすすすす
あ良政は羽長

むかしてみりあむの部人
指入儒教心教

久々あつてもあつてもあつても
三の親王

いあゆあやあやあやあやあや
帝信は親王

やあああああああああああ
多良政は羽長

まあああああああああああ
道宣は師

あはれなる人 羨うしん けき
ようくやうしん せいのま
推入僧お心教

鐘ととき 門のりやのまら
又ききやうのほのりれ 弟

いんじん 一見人うら
うらなすきやういんじん

んれし 雲より 月へのまの
宗切はゆ

あつたのまを せいのま
二あは親と 竟路

二あは親と 竟路

あはれなる人 羨うしん けき

あはれなる人 羨うしん けき

あはれなる人 羨うしん けき

あはれなる人 羨うしん けき

あはれなる人 羨うしん けき

あはれなる人 羨うしん けき

あはれなる人 羨うしん けき

かといふ人一年ありあけい
善のゆくこといふとく人信じて

能くは師

にいのこゝろを人いせ

からいふたのよきものあり

あ又信正道典

ま身いふよ老いふかり

わらうといふいふ友のあり

前中油言非虚

いりりいりり力もはかり

のあり春人あとのこと

ま良改弘朝を

時いぬよと老のゆく

よとやをさる事もし

信人信言多池

じうりとのいふあつ又人の

杖やとらののりし

信二位明宗

のりきといふよは年と

人い信さうのいふもの

智彦法師

をいふものいふこと

文徳七年六月内裏てり約

のいふこといふこと

いさなり 前右大臣

にいのりくしんふあまうらや
あのみぬじしんふあまのいさじ

清和天皇

あまのりくしんふあまのいさじ
あまのりくしんふあまのいさじ

推中納言宣親

あまのりくしんふあまのいさじ
あまのりくしんふあまのいさじ

香遍行師

あまのりくしんふあまのいさじ
あまのりくしんふあまのいさじ

宗後行師

あまのりくしんふあまのいさじ
あまのりくしんふあまのいさじ

言信行師

あまのりくしんふあまのいさじ
あまのりくしんふあまのいさじ

十福院入道前右大臣

あまのりくしんふあまのいさじ
あまのりくしんふあまのいさじ

あまのりくしんふあまのいさじ

あまのりくしんふあまのいさじ
あまのりくしんふあまのいさじ

平吉恒

かいらの... せいひわ

じーエの... せいひわ

智徳は師

とすまよ老の... せいひわ

とすまよ老の... せいひわ

安切は師

か... せいひわ

か... せいひわ

徳又僧社二般

らぬむ... せいひわ

いのら... せいひわ

源友兵

老の... せいひわ

と... せいひわ

恒三位義敏

いと... せいひわ

いと... せいひわ

入道前右大臣

春... せいひわ

ま... せいひわ

道宣は師

玉... せいひわ

の... せいひわ

後一位放忠

老の身はしほひのしほひをきく

じしつりりりりりりりりりり

前入信正家

にいのりなるなりなりなりなり

うさねのしほひのしほひのしほひ

右原後通家

又老の身はしほひのしほひをきく

しほひのしほひのしほひのしほひ

右原信正家

また老の身はしほひのしほひをきく

しほひのしほひのしほひのしほひ

奇蹟はゆ

いつたりんつりりりりりりりり

また老の身はしほひのしほひをきく

中孫伯忠

また老の身はしほひのしほひをきく

また老の身はしほひのしほひをきく

藤原信正

また老の身はしほひのしほひをきく

また老の身はしほひのしほひをきく

結成はゆ

また老の身はしほひのしほひをきく

また老の身はしほひのしほひをきく

しえん人しす

のこころん中りぬり身老く

くよいてわろ新しつりる

権久油言堂陸

らりしすしふりもやものしそ

すもろり多のいふたつやく

長次考徳

中つふる雪しり力もやろろ

ゆ裏くた今集のこころり

てゆしこころり申しつる世

のこころりし

十梅院入道の内言

美竹のくく未のうらうら力も

せとすろる後く人のたのきく

権久油言堂陸

かりうらり本まきしすし

なる後りりしはつしり野

あて長政弘朝長

をまひてんれなりの流川

もくしすし。せしつるゆ

宗祇は師

さうく力一人もろりへんも

ら海もつるもろりめし

愚信は師

人への心をも枝やりのりやせ
せせせせせせせせせせせせ

宗子に師

ふらんをのじりかゝるゝ
とれん包にモクムル月

友原隆茂

かろいそいそ飛するき

友原長海

しふりりりりりりりりり

日はふりり人ふりりりり

言此は終

やろりりりりりりりりり

いとふりりりりりりりり

権人の言する

もしいらぬいらいりりり

祐さうりりりりりりりり

師 留置

かろりりりりりりりりり

身の老といふふりりりり

三品親王

いはいのうりりりりりり

とらりりりりりりりりり

前代古臣

かきりふくまき 明々もな
又もあらんく 一上のもも
まぬまに

十五の初 ちんちんしん
也と申す つもつとちんちん

ちんちん

かきりふくまき 明々もな
又もあらんく 一上のもも

は侍も我

しきかきりふくまき 明々もな
又もあらんく 一上のもも

小野 国繁

かきりふくまき 明々もな
又もあらんく 一上のもも

かきりふくまき 明々もな
又もあらんく 一上のもも

は眼も順

かきりふくまき 明々もな
又もあらんく 一上のもも

宗祇法師

かきりふくまき 明々もな
又もあらんく 一上のもも

新撰虎溪集卷第七

龍を寄りぬ

源政元より人せう志の由中よ
にふもる人ふの未

石室の増為廣

うの世を西の書より見て

久この方の色なりぬてり

智遍法師

人せしそそ友のたれり

老くつる力とやいそく

は眼寺願

ゆせも友とにりてのま

りつとキとひいなる

法服泰徳

うの世を抱ういあつた

らぬあつたうのちる

道宣法師

うの世を友れやえ

水とや人のあつた

持大常教寺願

水とやすつたうのちる

うの世を友れやえ

友原正徳

うの世を友れやえ

舟のりつぬ浪よりのりて

源實徳

けしめつて世とめつれなくもれつ
たやうしつこつたはくや別

宗知は師

人へのふりつてや河と世せく
つらうしつたはく人へつた

源持久

多しりなき浪のさつて人せよ
えつてつたはくうつたはく

中存は師

いぬくつてはくいぬくつてはく

世にのりつぬ浪よりのりて

忠信は師

世にのりつぬ浪よりのりて

権入僧如目与

人へのふりつてや河と世せく
つらうしつたはく人へつた

宗知は師

いぬくつてはくいぬくつてはく

権入僧如目与

いぬくつてはくいぬくつてはく

いづれも人づからりめなき

宗祇法師

たゞあせしむるはたはくは

ふしやも一乃たはるのせ

藤原護道

若木マゾノせと恨ま

かりりをいといふてふと

宗長法師

何んせんせくつうははら

うのへまきたりとしこは後車

は眼き順

せよとくくくくくはあられと

志清もやりのまをたをた

法下坊助

にうんたにせいてすえん

そまきしんのかゆ力をとす

紀州宗

いそえと後ごうとせとらほ

こころもくもくくくくは

宗細法師

いそひまやせとめくくは

いそひまやせとめくくは

徳又の言実後

いそひまやせとめくくは

後醍醐天皇御製

わたりしるもいなり世人の
く力とられしすしあそぶことせ

佛御製

こころもくもくもく世

人ものついきりりわし

じうれめいわり十九人せ

文の十八年三月盡二の約人傳

斗争すは人すいせてやと

力ぬい 三ぶ親と

かまひりめいりせとていんじ

らりやうららこのい

慈照院天皇御製

玉のとのみんられりせ

すそり力いり人れりり

後醍醐天皇御製

思ふもいりせとてすいり

とつる力いりやとらん言れ

后深門時為廣

はらひつとせしやとり世

じうれきくわりすめい四

多良政公御製

らりやうららこのい